

慈恩寺 Times

第30号

【発行】
寒河江市慈恩寺振興課
【発行日】
平成30年11月20日(火)
【問合せ・ご意見等】
寒河江市慈恩寺振興課
TEL:0237-86-2111(内線452)
E-mail:jionjishinko@city.sagae.yamagata.jp

聖徳太子像、正式に国重要文化財に！ 阿弥陀如来は釈迦如来に



【写真】

左：「木造聖徳太子立像」

右：「木造釈迦如来及諸尊像」



9月開催の第6回慈恩寺講演会では、指定にあたり評価された点や像の特色などを文化庁の井上調査官よりお話ししていただきました(裏面をご覧ください)。

「木造聖徳太子立像」は既に公表されているとおりですが、「木造釈迦如来及諸尊像」については、統合ということもあり今回正式に公表されました。

10月31日、官報告示によって、慈恩寺の聖徳太子像が「木造聖徳太子立像」の名称で正式に国指定重要文化財となりました。また、これまで阿弥陀如来として指定されてきた像が本来の釈迦如来に名称変更され、文殊菩薩や普賢菩薩などと統合した上で、「木造釈迦如来及諸尊像」の名称で重要文化財に改めて指定されることも告示されました。「木造釈迦…」は、法華経の世界を表す仏像群で、現存する10体で1組として指定されます。

イベント情報

慈恩寺大晦日花火大会

雪月華

大晦日恒例の花火大会。8回目となる今回は、花岡和香さんや和太鼓奏者「奏紀」さんのコンサート、写真コンテストも開かれます。

除夜の鐘を聞きながら、冬の夜空に広がる大輪の花をお楽しみください。



日時：12月31日(月)午後11時40分より

場所：慈恩寺活性化センター前

写真コンテストはInstagramで「慈恩寺大晦日花火大会」もしくは「zionnji_hanabi」で検索！

江戸時代の修験修行場跡を巡る

「慈恩寺修験の道ウォーキング」開催

10月20日と28日、慈恩寺修験の修行場跡を巡る「慈恩寺修験の道ウォーキング」を開催しました。



2回目は雨で翌28日に順延となったものの、両日ともおおむね天候に恵まれ、紅葉も楽しむことができました。

参加者は1日かけて歩きながら、江戸時代の修行場がよく残る史跡の魅力に感じ入っていました。

新指定重要文化財の特色は？

第6回 慈恩寺講演会開催

9月22日(土)、慈恩寺活性化センターにおいて、文化庁の井上大樹調査官より「釈迦如来及諸尊像と聖徳太子像について」と題し、講演をしていただきました。調査官は今回の重要文化財の指定・統合に携わった方で、指定文化財の特色をお話ししていただきました。以下、講演の要約です。

「木造釈迦如来及諸尊像」について

像が作られた時期、12世紀後半の作、

釈迦如来像は張りのある丸顔という点では鎌倉時代につながるものだが、薄い衣紋線や薄い胸板などから12世紀後半の作。奈良の仏師が入れる正中線があり、奈良の工房の作か。寺の歴史と重ねると、保元2年(1157)年の火災以降、奈良で作られたとも考えられる。

像の特色、作り変えられた頭？、

今回の調査で、釈迦如来は頭が作り変えられていることが明らかになった。制作上、一旦頭を外し加工した後に戻すことはあるが慈恩寺の優填王像にも見られる、頭そのものを作り変えることはまずない。出来ばえに満足せず、作り変えられたとも想像できる。

文殊菩薩には背中に截金さいごん、細い金箔の線で作った模様があり、優れた技法で作られたことがわかる。普賢菩薩は顔の下半分がノミで離され



講師の井上調査官

ている。普通は離した後空洞化の加工をするが、これにはない。同じことは十羅刹女の一体にも見られる。どれもノミを入れた意図は不明。名称変更の妥当性

今回の調査で、手の指が修理で補われたものと判明した(※仏像がどの仏様かは、「印相」とよばれる手の形で示される)。よって、当初から同じ印相かは不明だが、修理では普通は元どおりに直すので、当初から釈迦如来とみてよい。一見阿彌陀如来のようだが、奈良の大安寺にあった釈迦如来像も左足を上に組み、同じ印相だった。

釈迦と文殊は眉の角度、鼻や口の形、細く長い耳が似ている。正中線は、仏像群を結び付ける積極的証拠として捉えてよい。よって、一セットの仏像群と見て差し支えない。

「木造釈迦如来及諸尊像」の特色

平安時代に作られた十羅刹女の彫刻は、全国でも少ない。普賢・文殊に眷属けんぞく(従者のこと)もいる彫像群は、平安時代のもものでは他に例がない。

「木造聖徳太子立像」について

作った人は？

ほおが長く、幅広い鼻が慈恩寺の薬師如来像

と共通しており、薬師如来像を作った院保もしくは院派の工房の作と考えられる。

「木造聖徳太子立像」の特色

鎌倉時代に作られた聖徳太子像は全国に現存する。だが、特色ある血書経願いを叶えるために、自らを犠牲にして血で書いたお経が納められており、像に当初の色彩がよく残っているため、慈恩寺の像は貴重な存在である。

当日は会場に150名が来場し、調査官の話に熱心に聞き入っていました。



会場をうめた参加者。県外からの参加もありました。